

例会日：毎週木曜日 12 時 30 分
 例会場：岐阜県郡上市八幡町小野 67(八幡建設 2F)
 TEL (0575) 67-0314 FAX (0575) 67-0005
 E-mail: rc-8man@abeam.ocn.ne.jp
 URL: http://gujohachiman-rc.com/

会 長 : 岩尾 誠
 副 会 長 : 水上成樹
 幹 事 : 三原慎也
 公共イメージ : 西川 昇
 会報担当者 : 長尾信幸・河合和也

2020 年度国際ロータリー会長：ホルガー・クナーク (Herzogtum Lauenburg-Mölln ロータークラブ・ドイツ)

2020 年度国際ロータリーテーマ：Rotary Opens Opportunities (ロータリーは機会の扉を開く)

<本日のプログラム>

第 2682 回 令和 2 年 9 月 24 日 第 4 木曜日
 己書青龍書道 山下恵子様

<次回の予定>

第 2683 回 令和 2 年 10 月 1 日 第 1 木曜日
 会員卓話 松良 努会員
 川井昭司会員

<前回の記録>

第 2681 回 令和 2 年 9 月 17 日 木曜日
 会員卓話 可児一彦会員
 長尾信幸会員

| | |
|---------|-------------|
| 司 会 進 行 | 國田大雄副 SAA |
| 点 鐘 | 岩尾 誠会長 |
| ソ ン グ | 我等の生業 |
| 出 席 報 告 | 大川達也出席担当責任者 |

| 会員数 | 出席 | 補正 | 出席合計 | 出席率 |
|--------------|------|-----|------|-------|
| 38 名(免除 1 名) | 30 名 | 6 名 | 36 名 | 94.7% |

ニコBOX 山下友幸ニコBOX 担当責任者

- ・可児君、長尾君 卓話楽しみにしています。よろしくお祈いします。 岩尾 誠
- ・可児君、長尾君 卓話ご苦勞様です。楽しみにしています。 三原慎也
- ・お聞き苦しいと思いますが、よろしくお祈い致します。 可児一彦
- ・本日の卓話、よろしくお祈いします。 長尾信幸
- ・長尾会員、可児会員 本日の卓話楽しみにしています。 村土時男
- ・誕生日のお祝をありがとうございました。 水上成樹
- ・可児君、長尾君 本日の卓話宜しくお祈いします。 遠藤一史・畑中伸夫・林 健吉・平岩憲政 河合和也・川井昭司・國田大雄・松本英樹 松森 薫・松良 努・水上成樹・森下 光 西川 昇・西村 肇・野田三津雄・大川達也 酒井智義・坂本 仁・竹内巧治・田代東次郎 和田英人・渡邊 剛・山川直保・山下友幸

幹事報告 三原慎也幹事

- ・RI 日本事務局より配信履歴
- ・地区事務所より 8 月度クラブ増強状況報告書
- ・ガバナー事務所より第 49 回ロータリー研究会 第 2 部ご参加についてのご案内
- ・郡上長良川 RC より GTM アンケートとお礼状
- ・郡上市役所環境水道部環境課より、令和 2 年度 郡上市環境団役員・総代及び実績報告の選出について
- ・各務原、関、可児、美濃、美濃加茂 各 RC より 例会変更等のお知らせ

<拝受>

- ・米山記念奨学会より「ハイライトよねやま」 246 号
- ・関中央、美濃 各 RC より週報
- ・伊勢崎中央 RC より 2020-21 年度クラブ現況報告書

委員会報告 林 健吉情報担当責任者

今月の IDM のお知らせ

会長の時間 岩尾 誠 会長



ロータリークラブとライオンズクラブの違いを聞かれることがよくあるので、それについて何かいい話がないか探してみました。そうしたら、札幌にあるロータリークラブの会長が凄く簡潔にまとめられていたので、紹介させていただきます。まず同じ点ですが、ともにシカゴで創立されました。ロータリーの創始者ポール・ハリスとライオンズの創始者メルビン・ジョーズは、シカゴ郊外のマウント・ホープ墓地に埋葬されています。他には、両クラブとも国際平和、国際奉仕に努めています。

次に異なる点ですが、ライオンズは「奉仕」はクラブ全体で活動することに主眼をおいています。例会は月2回です。ロータリークラブは、一人ひとりの動機を大切に、それぞれの職業を通じてサービス・レベルと自己の人間性の向上を図ることに主眼をおいています。例会は月2回以上で入会審査が厳格です。数的比較ですが、ライオンズクラブは世界で47,390クラブあり、会員数は約142万5千人です。日本には3,056クラブあり、会員数は約11万7千人です。ロータリークラブは、世界に36,158クラブあり、会員数は約121万7千人です。日本のクラブ数は2,248で、会員数は約8万8千人です。両クラブ合わせて260万人以上の会員が、叡知とリーダーシップでこの困難な時代を乗り越えていっています。八幡にもライオンズクラブがありますので、お互いに情報交換をしながら社会奉仕に勤めていきたいなと思います。

会員卓話 可児一彦会員



私は建築の設計の仕事をしています。それぞれの業界で業界用語がありますが、建築業界にもたくさんの業界用語があります。この業界用語から、日常会話に使われるよう

になった用語を紹介します。最初に、これは有名なですが「うだつが上がらない」という言葉を聞くことがあると思いますが、この「うだつ」が業界用語です。美濃市が有名ですが、隣の住宅との間が少ないような建物で、隣の屋根の境界を少し立ち上げた火事の延焼を防ぐための壁で、これを造るのに費用がかかるため、うだつを上げて造る人が少ないところから使われるようになりました。次に短い間という意味で使われる「束の間」です。この「束」というのは、床や屋根を支えたりする短い柱のことです。この束の部分から「短い」や「少し」という意味で使われるようになりました。次に「叩き上げ」ですが、下積みからしっかり鍛えられた人を意味します。土間などに使う土は、しっかりと固めてないと良い土間が造れません。何度も叩いて重ねて苦労して作ったことから生まれた言葉です。次は「ぼんくら」です。諸説ありますが、ぼんくらの「くら」は土蔵のことです。土蔵を造る時は、壁になる土がよく乾くように空気の乾燥した寒い時期に造るのが習わしですが、お盆の頃、雨や台風が多い時に蔵を造ることは、何も考えていない、計画性がないということで、「盆蔵」となったということです。次は「いの一」です。最初の最初、真っ先という意味で使われますが、これは柱の番号に由来しています。家の図面に柱の順番を、横に「い、ろ、は、…」、縦に「一、二、三、…」と書き、一番最初に建てられる柱が「い」の「一」になることから、最初の最初の意味で使われるように

なりました。次が「羽目を外す」です。羽目とは板を綺麗に並べて張るのですが、板は木で作られているので乾くと縮みます。そのため、木が縮んでも隙間ができないように加工するので羽目板が外れることはありません。その羽目板が外れるということは、相当なことだということで、浮かれる、度を越して調子に乗るという意味になりました。次が「几帳面」で、丁寧とか真面目、正確の意味で使います。几帳面という間仕切り用の布製の屏風があり、その几帳面の柱は面取りがしてあります。柱の角を取ることを面取りといいます。これはとても正確な技術を必要とすることから、現在のような意味で使われるようになりました。業界用語はまだまだ色々ありますが、また次の機会にお話ししたいと思います。

もう一つ、家相についてお話しします。住宅を建てる時に色々の間取りを考えますが、その時に家相を気にする方がみえます。家相は風水の一つで様々な考え方がありますが、昔からある一般的な風水だと、建物の北東方向を鬼門、南西方向を裏鬼門といい、この方向に台所やトイレなどの水回りを作るとあまり良くないと言われています。これについて調べた先生がみえて、元々風水は中国から伝わってきました。中国というのは、夏は南西方向、冬は北東方向に風が吹くので、その方向にトイレを置くと臭いが充満したり、火の元を置くと火事の時に燃え広がりやすいということで、これらの方向には作らない方がいいという教えの家相ができました。日本では、夏は南東方向、冬は北西方向の風が吹くということで、この風水からいうと逆になりますが、昔に伝わった風水がそのまま今に至っています。現在の住宅では、トイレは水洗になり台所はガスやIHでコントロールできるようになっているので、今はそんなに風水を気にすることはないように思います。もし悩んでいる方が周りにはいる時は、アドバイスをしてあげると役立つこともあると思います。

どうもありがとうございました。

会員卓話 長尾信幸会員



今日は、遊技業の世界についてお話しします。まず、パチンコの歴史ですが、大正時代に欧米から輸入された「バガテル」や「コリントゲーム」、「ウォールマシン」といったゲーム機が原点と言われています。最近では、こうした横型の仕様ではなく、パチンコのように縦型のゲーム機が欧州各地に点在していたことが分かり、こちらをルーツとする考え方が主流となっています。パチンコのルーツは諸説あるので、あくまでも説の一つです。昭和2年頃、パチンコの原型となる玉ではなく1銭銅貨を弾く遊技機が登場しました。この遊技機は、関西では「パチパチ」、関東では「ガチャンコ」と呼ばれてい

ました。その後、パチパチとガチャンコを一緒にしてパチンコという名称になり、「一銭パチンコ」が登場しました。さらに、投入口に1銭銅貨を入れると玉が出て、弾いて当たりの穴に入れば1銭銅貨が戻ってくるかお菓子が貰える、というものもお祭りや縁日で人気がありました。日本初のパチンコ店ですが、昭和5年に愛知県警がパチンコ店営業申請を許可し、日本初のパチンコ店が誕生しました。当時のパチンコ店は民家の玄関先にパチンコ台を設置するスタイルでしたが、すぐに人気が出て次々と全国でパチンコ店が開業しました。最初に営業申請の許可が下りたのが愛知県だったので、パチンコ発祥の地は愛知だと言われていきます。その後、パチンコの射幸性は高くなっていきます。それまでは1銭銅貨で玉を購入し、当たっても1銭以上は出ませんでしたが、当たると2銭、3銭が出てくるパチンコが登場し、ますます人気が高くなっていきました。しかし、射幸性の高さや「皇室の御紋の入った1銭銅貨を遊技に使用するのはいくはない」という理由で、昭和7年に大阪でパチンコ禁止令が出ました。でも、大阪など一部では禁止されたものの、高知県では半年間で30店舗以上開業するなど大流行しました。ただ、払い戻しに硬貨を使用できなくなったため、代わりにメダルで払い戻される「メダル式パチンコ」が登場しました。その後、昭和12年に日中戦争が始まると、パチンコ店の新規営業が禁止になりました。昭和15年には、パチンコ台の製造が禁止になりました。昭和17年になると、「非国民的遊戯」としてパチンコが全面禁止になりました。時代背景として太平洋戦争に突入してからは、金属供出でお寺の鐘や家庭の鍋釜まで回収されていた時代ですので、パチンコ玉なども当然のように供出され、営業したくてもできない状態でした。戦後は、進駐軍の娯楽のためにパチンコ店が再開されました。また、闇市でも無許可のパチンコ店が営業されていましたが、昭和23年に風俗営業等取締法（風営法）が施行され、パチンコ店の営業は公安委員会の許可が必要になり、貸玉料金が1玉1円に決まりました。その後、正村竹一が「正村ゲージ」を開発します。それまでのパチンコ台は、釘が均一に配置され玉の動きが単調でしたが、正村ゲージは現在のパチンコ台に見られる釘や入賞口の配置、風車を備え、玉の動きに緩急がついて複雑になり、「これは面白い」ということで大ヒットし、第一次パチンコブームが到来しました。昭和20年代後半になると、玉を一つずつ入れてハンドルを弾く単発式から、現在のような玉皿から自動的に玉が送り込まれる連発式が登場しました。この時の連発式は、1分間に140～160個の玉を発射できることなどからパチンコブームはさらに加速し、最盛期には全国に45,000軒以上のパチンコ店が乱立しました。しかし、この連発式のパチンコ自体の射幸性も跳ね上がり、結果、プレイヤーが大

量に獲得した賞品を路上で買い取る、通称「バイ人」がホールの周りをうろつくようになりました。さらに、一度に負ける金額が多くなったことなどで社会的な批判が高まり、昭和29年にこの連発式には禁止措置が打ち出されてしまいました。翌30年4月からは、旧来の単発式による営業が強いられ、全国のホールの軒数は一気に10,000軒を割り込んでしまいました。当時のパチンコ機メーカーは、こうした反省を踏まえて射幸性に頼らない遊技機の開発に乗り出し、昭和30年代にはジンミットやチューリップといった遊びのアクセントとなる「ヤクモノ」が登場しました。昭和40年代頃には、今のパチスロ機の原型となる「オリンピアマシン」など、新タイプの遊技機が登場しました。玉貸機や玉の補給装置といった省力化機器の発達が後押しし、店舗の大型化も進行了しました。ブームの終わった郊外のボーリング場が次々とパチンコホールに鞍替えする現象も見られました。これを機にホールも、当時のモータリゼーションの流れに反応して郊外型店舗を伸張させていきます。並行して、電動ハンドルや電子基板の搭載など、社会的なエレクトロニクス化の動きもいち早く取り入れました。しかし、こうした努力を行っても連発式の禁止後のホール軒数は、20数年の長きに渡って10,000軒前後で推移するという状態が続いたままでした。こうした状況を打破したのが、昭和55年に登場した「フィーバー機」です。社会の経済発展に連動する形で射幸性も上がり、その後、年間で数百軒ずつホールが増えるという空前のブームを作り出します。翌年登場した「ハネ物」もかなりの人気を博したほか、雀球やアレンジボール、さらにはパチスロ機といったように遊技機のバリエーションも増し、大衆娯楽としての人気を不動のものにしていきました。平成に入ってもその好調さは続き、プリペイドカード方式の導入や遊技機へのカラーモニター搭載など、技術革新もどんどん進んだ結果、ホールの市場規模は実に30兆円にも達する産業に成長しました。しかし、好調に映るパチンコ業界には、かつての連発式禁止令とほぼ同様の展開が待ち受けていました。プレイヤーののめり込みに起因する、ホール駐車場での幼児の事故や多重債務問題、さらには変造プリペイドカードの横行などが社会問題となり、行政による規制、そして業界団体による自主規制などが設けられ、規模縮小が余儀なくされたのです。その結果、平成7年の18,000軒をピークに23年連続で減少し、現在のホール数は約10,000軒で、市場規模も縮小傾向にあります。近年はプレイヤー人口の回復に向けて、1円パチンコに代表される低価貸営業による遊びやすい環境の整備や、幅広い層に支持されるエンターテインメント性を重視した遊技機の開発なども積極的に行われていますが、残念ながら数値的な回復には至っていないのが現状です。ありがとうございました。